



Profile

羽ノ浦竹の会におメンマ有限公司

阿南市で新聞販売店を営みながら、人とつながり、地域の課題を解決するべく、日々奮闘中。徳島市の郊外で子どもの頃を過ごした仁尾さん。悪ガキだったけど、近所のおじさんたちは優しくいつも見守ってくれていた。現代でもそんなあたたかいコミュニティを作るのが目標。



メンマから始まる竹林整備 美味しく食べて 竹林を未来へ繋ごう

もともと山に入るのが好きだった仁尾さん。阿南市羽ノ浦町に移り住み、『岩脇公園を美しく志隊』への加入をきっかけに5年ほど前から竹林の活用を模索してきた。そんな時に見たテレビ番組で伸びたタケノコを安全な国産メンマに加工し、『純国産メンマプロジェクト』を立ち上げ、放置竹林の全国的な意識啓発に取り組む日高英治さんを知る。これなら、美味しく食べて竹林整備ができ、日々真摯に新聞販売の仕事に取り組む従業員にも新たな活躍の場が広がるのでは考えた。思い立ったら吉日。福岡に足を運び、日高さんからメンマ作りのノウハウを学び、試行錯誤を重ねて、シャキっとした食感でスッキリとした味わいのメンマが誕生した。

材料にするのは、硬い竹になる前の育ち過ぎた孟宗竹の子である幼竹(ようちく)。放置竹林を作らないためには、多くの人に竹林に入ってもらい、材料となるタケノコを切ってメンマを作り販売し、関わった人の生活が少しでも豊かになる循環を作ることだ。そのため、仁尾さんは、幼竹を100gごとに買い取る仕組みを構築している。

自分の役割は、先輩たちが守ってきたことを未来へ橋渡しすること。美しい竹林を未来へ繋いでいくため、仁尾さんはメンマとともに走り続ける。